

熊本に最新豆腐製造工場誕生!

能力約3倍に!

(祝) 田代食品新社屋・新工場完成。

新工場の背景には、新緑の山々と自然豊かな大地が広がっています

【企業 Profile】

株式会社 田代食品
 創業：昭和25年4月
 従業員数：30名
 所在地：熊本県阿蘇郡西原村布田682-6
 電話番号：096-279-3939

九州初の全ライントータルプロデュース! by YANAGIYA

このたび、熊本を代表する豆腐製造メーカー(株)田代食品(阿蘇郡西原村、田代龍次社長)さんでは、既設の第1工場に加え、新社屋・新工場が完成いたしました。新工場は、事務所、大豆倉庫、大豆浸漬室、冷蔵庫、生産工場などからなり、主な生産ラインは「絹豆腐」と「充填豆腐」のラインです。今回当社では、最新の4俵豆腐プラント、搾り機、BIG-Jなどを含め、大豆倉庫からの原料投入からボイル・クールまでの一貫した全ラインをプロデュースさせて頂きましたが、九州地区への全ライン納入は初めてで、以前からの大きな目標でもあり、本新工場には田代社長と当社の「夢」が沢山詰まっています。また、新工場の生産設備についてはまだまだ進化中で、田代社長の新木綿ライン導入についてのヤナギヤへの期待は大変高いものがあります。



田代龍次 代表取締役社長 (S40.10.13生まれ43歳)

<田代社長のお話>

新工場建設のきっかけは?

最初は現状の過酷な労働状況を変えたいと思ったことです。

そして「ロスの少ない工場を作りたい」ということが一番の思いでした。ですから、ヤナギヤさんの絹ライン「BIG-J」には以前から大変興味があり、納入先への工場見学にも3回一緒させて頂きました。そこで最初の感想として

は“これなら楽が出来る”と思った覚えがあります。そして、人の手に触れない商品作りが可能ですので、より衛生的で安心安全な商品づくりが出来ることに期待し、BIG-Jを核として全てのラインをヤナギヤさんにお任せしました。特に会社とは「信用」「信頼感」が重要で、ヤナギヤさんは色々な発想力で、他社には無い物を持っていると感じていますし、当社も必ず良くなるだろうとの思いからお願いした訳です。この度は色々ご苦労をお掛け致しました。

今後の展開については?

設備的には絹ラインの生産能力を現在の倍に増設したいと思っていますし、バラエティ商品も増やしたいと思っています。また、木綿豆腐のラインを新しくしたいと思っていますので開発中のテスト機でも良いので1号機を早く持ってきて下さい!期待しています。

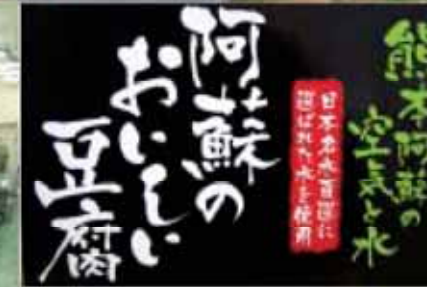
ヤナギヤに望むことは?

まずは、はじめの内はオペレーターの育成や緊急時の対応・メンテナンスなど、色々協力して頂きたいと思っています。

それから、とにかく良い機械を安く作ってほしいと思います。特に木綿。また、誰でも簡単に使える機械、オペレーターがローテーションしても覚え易い機械づくりをして下さい。例えば、操作手順も音声ガイドや操作画面の一つ一つが大きく分かりやすい表示であったりすれば、誰でも簡単に使えると思います。全部がデジタル制御で全自動というのも調子の良い時は寝てても豆腐が出来ますが、トラブルの時に問題です。少しは人が手で動かすことも必要ではないでしょうか。また、機械も専用機ではなく、1台で何種類もの製品が出来るような構造やアタッチメントも考えてもらえれば、ユーザーのニーズにも素早く応えられると思います。

これからの夢は?

豆腐作りは朝早くから大変な作業ですが、新工場も完成し、これからは楽が出来るのではないかと夢見ています。ただ、旧工場(第1工場)と新工場とのギャップが激しいので、従業員にもローテーションを組んで行かなければと考えています。当社の豆腐製品は約50種類のアイテムがありますが、今後は「小さいもの」「大きいもの」「薄いもの」など、更にユーザーの声に耳を傾けバラエティ豊かな商品を作っていくと思っています。また、地元産の大豆を使い、地産地消にこだわった商品を開発し「田代ブランド」の展開を図りたいと思います。今は九州全域が価格競争に巻き込まれて厳しい状況ですが、生産能力を上げ、良い商品を提供することで販売網の拡大と、地元産大豆の消費増にも貢献できればと思います。



地下水の豊富な阿蘇山脈から湧き出す名水。熊本の中でも阿蘇山周辺には「日本名水百選」に選ばれた水源がいくつも存在し、そんな世界最大級のカルデラ火山の裾で育まれた清流でつくった田代食品こだわりの豆腐です。

充填豆腐ライン



①ニガリ定量供給&自動充填包装



②ボイル・クール (充填豆腐用)



③ボイル・クール (相用)



お祝いのお花も沢山届けています。後藤営業部長(左)と建築設計を担当された善啓工業の田上社長(中)

BIG-J 絹豆腐ライン



①充填・凝固・切筋・バック詰め



②シール機



第二工場責任者 古閑裕一郎さん(28歳)

これだけのラインを一人で動かすことは大変な責務だと認識しています。立ち上げの時から初めてのことばかりで、今は一つずつクリアしていくことを考えています。ヤナギヤさんには色々協力して頂いており、これからは設定値も変えながら更に味を追求して行きたいと思っています。

*ちなみに古閑さんは、熊本市出身の女子プロゴルファーで昨年の賞金女王、古閑美保さんのご親戚だそうです。